

畑作の主な雑草の図説 Ⅱ

農林省農事試験場 荒井正雄(農博)

4. イヌビエ

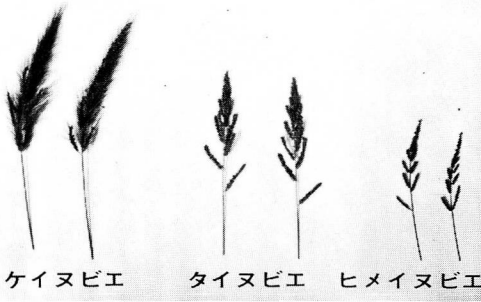
野生のヒエを総称してノビエと呼び、食用のヒエと区別しております。ノビエは一年生草本ですが、わが国の田畑に生えるのは主に次の3種類です。

タイヌビエ……湛水田のなかによく生育する。

ケイヌビエ……水路・田のあぜ・湿気の多いところによく生育する。

ヒメイヌビエ……土壤水分の少ない所によく生育する。したがって、畑に生えるのは主にヒメイヌビエです。

ヒメイヌビエは、普通は畑や路傍に生育しますが、ごくまれに水田にも生えます。草丈は、20~70cmの小型であり、ほふく性があります。稈の基部または小穂が淡褐紫色または褐紫色をおびるものが多くあります。出穂期は、タイヌビエ、ケイヌビエにくらべてきわめて早くあります。



ノビエの穂

5. スベリビユ

肥えた畑の日当りのよいところなら、どこにでも生える一年生草本です。割合に土壤水分の少ない乾いた畑によく生えます。

5月ごろから生えはじめ、茎や葉はやわらかい多肉質で、茎は赤褐色をおびて枝が多く、地面をはい長さ20~30cmとなります。

この茎は、このような草状から「這い草」の意味でイハイツルともいわれています。

葉は対生で厚く、花は小さく枝先に集まってつき日光をうけると開きます。



6. タデ類

(1) ハナタデ

原野・路傍・空地・畑などに多い一年生草本です。4~5月ごろからが発生の盛んな時期です。高さは20~40cmくらいで、オオイヌタデよりもかなり小形です。

茎は細くてなめらさで紅味をおび、葉は互生で細長く先はとがっております。托葉は鞘状で口縁の毛は非常に長くあります。

6~7月には、枝の先に直立する長さ1~5cmくらいの密な花穂をつけ紅紫色の(少ないが白色のものもある)小さな花を密生します。

(2) オオイヌタデ

4月ごろから生えはじめます。タデ科のなかでは大形で1mあまりになります。茎は円柱形で赤味をおび、多くの紫色の細点があって節は高くあります。

葉は互生し、細長く、先は長く鋭くとがり、なかほどに暗紫色の模様があります。托葉はうすい膜質で、鞘状に茎をかこみ口縁には毛がありません。7~8月ごろに花穂をつけ、淡紅または白色の小さな花が密生します。

(3) サナエタデ

サナエタデは早苗タデの意味で、田植時期に花がさき、別名ナツタデとも呼ばれる一年生草本です。草高は30~50cmくらいで、オオイヌタデよりはるかに小さくあります。

(4) ハルタデ

早春に発生し、春季に開花するのでこの名で呼ばれます。茎は直立し、分枝が少なく、草高は30~60cmくらいで毛がなく紅紫色を呈しています。4月ごろに枝の先端に花穂をつけ、白色の小花と紅紫色のがく花とを密につけます。

なお、タデ類はその種類によって若干ちがいがありますが、一般に早春によく発生します。したがって、畑では、北海道や東北および高冷地の畑作によく生え、暖地では早春播の作物圃でよく生えます。

